

事後評価報告書
(日本-台湾研究交流)

1. 研究課題名:

「大規模 IoT のための効率的かつセキュアな革新的 ID 管理技術」

2. 研究代表者名:

日本側: 東北大学 大学院情報科学研究科 教授 加藤 寧

相手側: 国立台湾大学 資訊工程学系 教授 林 風

3. 総合評価: A

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

使用アプリケーションタグ添付、GPS 情報タグ添付、ブロックチェーン認証、時刻ずれ情報利用と多岐に富んだ IoT 認証を日台で研究した点は当初の計画を超えて充実させていると評価できる。そして、本事業を活用した両国でのワークショップ開催や互いの研究拠点の訪問、メール等を利用した打ち合わせを通して研究を推進し、国際学会論文誌での掲載、相手側研究チームとの共著論文が本分野のフラッグシップカンファレンス IEEE ICC 2018 の Best Paper Award に選出されるなど、本共同研究成果を世界に発信できたといえる。

ただし、提案書で掲げた具体的な数値目標の評価方法、評価結果は報告されていないため、その達成度は不明である。また、IoT デバイスのセキュリティ確保については、統一的な観点まで研究を進めることで大きな波及効果につながると考えられる。今後の研究進展に期待したい。また、特許出願が台湾側に限られているが、日本側または共同の知的財産の確保も重要と考える。

(2)交流成果の評価について

ワークショップ開催や研究者交流により若手人材育成が推進され、本事業に参画していた学生が博士課程に進学するなどの成果が出ていることは評価できる。共同ワークショップでの学生の交流が国際会議での発表、受賞に繋がっていると思われる。一方で、台湾側の人材育成について具体的な成果が明確ではない。なお、本事業で構築した共同関係を生かし、他の研究プロジェクトへの応募を行っており、今後の継続・発展を目指した活動として評価できる。

(3)その他

特になし